

Novel, Challenge and Change
All Activities for Cancer Patients

最善のがん薬物療法の実践を目指して



国立がん研究センター

薬剤師レジデント がん専門修練薬剤師募集 (令和4年度)



国立研究開発法人

国立がん研究センター

National Cancer Center Japan

<http://www.ncc.go.jp/>

- 2 沿革／設立の目的とその使命
- 4 薬剤師レジデント制度について
- 5 薬剤師レジデント研修過程の内容
- 7 研修に関するQ&A
- 8 チーム医療に貢献する薬剤師
- 10 研修スケジュール
- 11 薬剤師レジデントの生活
- 12 薬剤業務
- 14 がん専門修練薬剤師の創設
- 16 募集要項(薬剤師レジデント)
- 18 募集要項(がん専門修練薬剤師)
- 20 薬剤師レジデントより
- 24 がん専門修練薬剤師より
- 27 交通情報

設立の目的とその使命

戦後、日本人の疾病構造が変化し、「がん」による死亡が増加し、その傾向はさらに強まることが予測されたため、国として、国民の医療・保健対策上の見地から、がん対策の中核として総合的な「がんセンター」の必要性が強く認識されました。そこで、1960年、当時の日本医学会会長、田宮猛雄氏ら9名の学識経験者からなる国立がんセンター設立準備委員会が発足し、「国立がんセンター」のあり方、将来構想など重要事項について検討し、厚生大臣宛に意見具申書を提出しました。それに従って、1962年2月1日、「国立がんセンター」が正式に発足しました。その目的は、東京に理想的ながんセンターを設立して全国的ながん施策の中核にすることでした。

その後、1992年に千葉県柏市に国立がんセンター東病院が設立され、1994年には、東病院に隣接して研究所支所、2004年には、がん予防・検診研究センターが築地キャンパスに設立され、翌2005年には柏キャンパスの東病院の中に研究所支所の組織を改め臨床開発センターが活動を開始しました。さらに2006年10月には築地キャンパスにがん対策情報センターが設立され、より一層施設の拡張と充実がなされ、病院、研究所が一体となって予防、診療、研究、研修、情報収集・発信の分野において、我が国のがん施策の中心的な役割を果たして来ました。国立がん研究センターは、我が国のみならず、世界的ながん対策の中核的な施設として、人類の悲願である「がん克服」に向けて、全力で取り組んでおります。



設立時の建物



外来診療棟竣工(昭和53年)



研究棟竣工(昭和56年)



東病院(平成4年)



中央病院新棟竣工(平成10年)



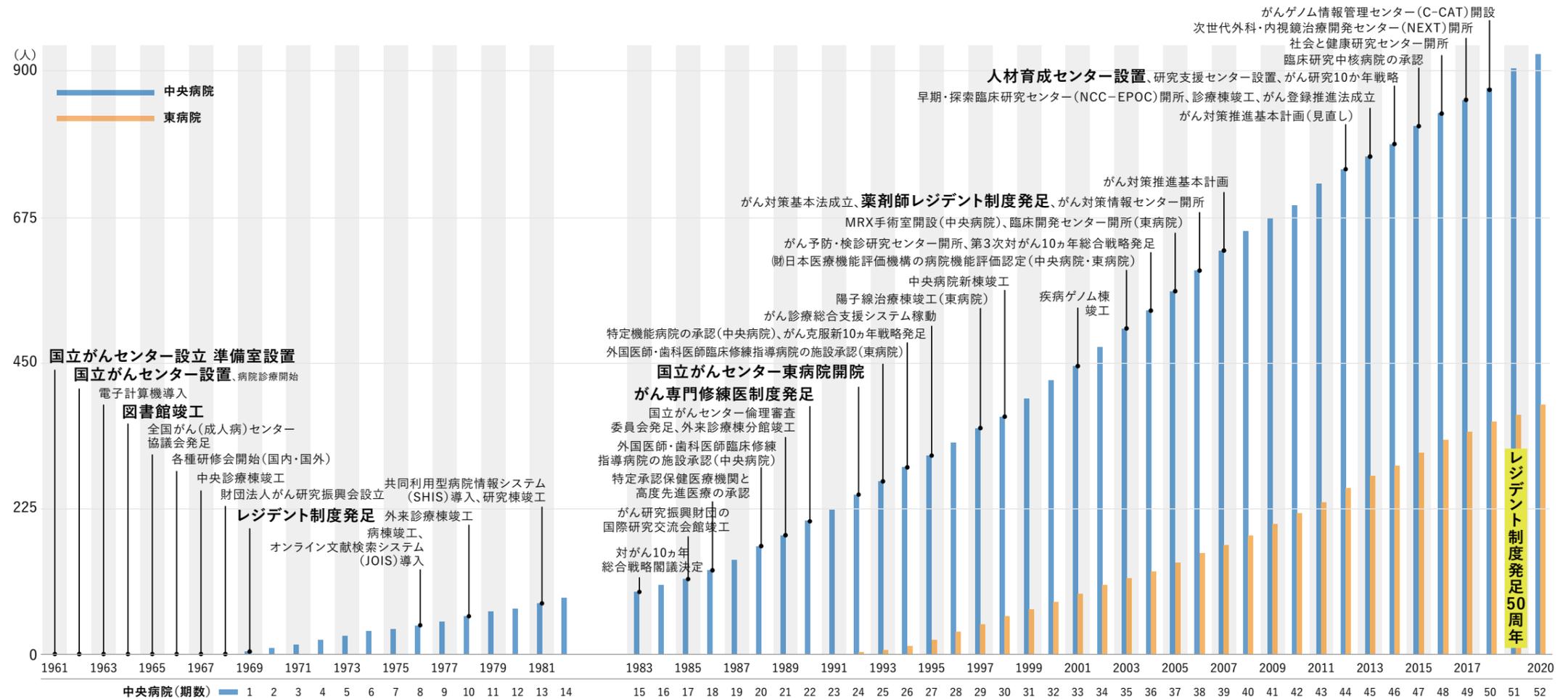
診療棟(平成25年)



「癌」の文字から「(やま)いだれ」を取り除き「品」とし、それを図案化したものです。昭和45(1970)年

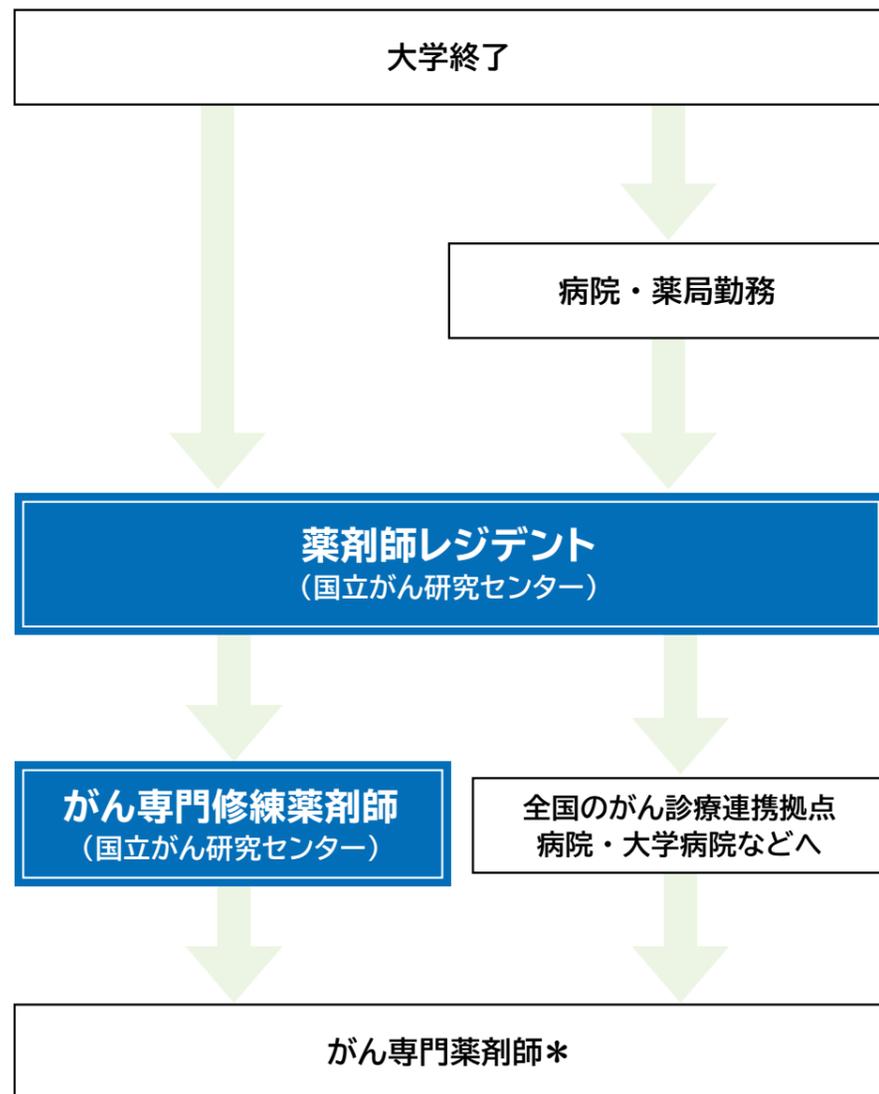
シンボルマークの内側の3つの輪は、「1. 世界最高の医療と研究を行う」「2. 患者目線で政策立案を行う」という理念に基づき、「(1) 臨床」「(2) 研究」「(3) 教育」を表しています。外側の大きな輪は「患者・国民の協力」を意味します。

レジデント制度50年のあゆみ



薬剤師レジデント制度について

「がん(悪性新生物)」は、1981年以降、わが国の死因の第一位であり、現在、がん医療の進歩・向上に対する社会からの期待は非常に高いものとなっています。国立がんセンターは1962年に創設されてから、これに応えるためがん専門の医療従事者の育成を行ってきました。我々薬剤師も専門的なチーム医療の担い手として、がん薬物療法における抗がん剤の治療効果に関する知識や安全な調製技術を有する専門性の高い薬剤師を育成する必要性が高まりました。2006年に薬剤師6年制教育が開始されると同時に、当センターでは薬剤師レジデント制度をスタートさせ、今年で16年目を迎えます。薬剤師レジデント制度では、3年の研修期間において、指導薬剤師のもと薬剤業務や病棟業務に従事しながら、知識や技能を修得するとともに、患者との意思疎通およびチーム内の他職種と連携を図るためのコミュニケーションスキルも身につけることを目的としています。これらを通じて、抗がん剤調製やがん薬物療法、緩和医療など高度な技能と知識を持つがん医療に精通した専門薬剤師を養成します。国立がん研究センター中央病院及び東病院は、日本医療薬学会のがん専門薬剤師研修施設及び日本病院薬剤師会のがん薬物療法認定薬剤師研修施設に認定されており、当院でのレジデントとしての3年間の勤務期間は、その研修期間に相当します。これまでに、13期生までがこの制度を修了し、それぞれ医療の第一線で活躍しているところですが、将来のがん医療を発展させ、国民・患者の期待に応えるためには、さらに多くの有為な人材が不可欠であり、志ある薬剤師がこの道を目指して頂くことを期待しています。



*認定要件の例：がん専門施設で5年の研修，50症例の経験，学会発表または論文発表が必要となります。

薬剤師レジデント研修課程の内容

【薬剤師レジデントの研修目標】

Vision：臨床・研究・教育、各分野でリーダーシップが発揮出来るトップレベルの薬剤師による医療サービスの提供を通じて世界最高峰のがんセンターを目指す

【薬剤師レジデント研修課程における到達目標】

(例：消化管内科)

1. 胃癌、食道癌、大腸癌の疫学が理解できる
2. 胃癌、食道癌、大腸癌の発生部位と関連した臨床症状が理解できる
3. 胃癌、食道癌、大腸癌の診断・治療導入時から終末までの一連の流れ (Natural Course) が理解できる
4. 胃癌、食道癌、大腸癌の病期別の治療方針が理解できる
5. 胃癌、食道癌、大腸癌の臨床症状に対応するための処置について理解出来る
6. 胃癌、食道癌、大腸癌のレジメン内容を理解し適正な投与量を確認出来る
7. 上記1～6をふまえ、患者に平易な言葉でわかりやすく説明できる
8. 化学療法以外の支持療法も含む薬剤の適切な使用法を確認できる
9. 患者の問題点を抽出し最優先事項を判断し、優先順位に沿った対応ができる
10. 患者の状況について本人ならびに他職種から情報収集でき、薬学的観点からのアセスメントができる
11. 入院治療から外来治療への移行をサポートすることができる
12. EBMの手法にのっとった批判的吟味ができ、消化管内科カンファレンスで簡潔なプレゼンテーションができる

【研修内容】

●業務を通じた研修

病棟業務、外来業務、注射薬混合調製、麻薬管理、薬剤管理指導業務、外来化学療法業務、緩和ケア、医薬品情報管理業務、TDM等

●講義による研修

がんの基礎知識、化学療法、支持療法、緩和医療、がん領域の臨床薬理など。その他、薬剤部勉強会、院内で行われる Medical Oncology Conference、緩和医療・栄養管理・医療安全・感染対策の勉強会に参加します。

【研修期間】

3年間

【年間スケジュール】

1年目

抗がん剤調製や麻薬の薬剤管理等の薬剤業務の基本を修得するとともに、薬剤部勉強会、院内のカンファレンスや勉強会等に参加し、がん薬物療法の基礎を学びます。

2・3年目

病棟業務や外来業務を通じてがん医療の臨床経験を積むことにより、がん専門薬剤師として必要な知識、技能を修得します。

この他、各レジデントは研究テーマを見つけ、毎年中央病院・東病院薬剤師レジデント合同報告会での発表を行い、また関係学会での発表や論文を投稿することが奨励されています。

研修に関する Q&A

【充実した講義研修】

がん専門薬剤師研修のための講義を聴講することが可能です。表は令和3年度に行われた研修の日程表です。

	講義日	講義内容	講師(敬称略)	形式
1	2/2(火)	食道癌	腫瘍内科医	WEB
2	2/5(金)	大腸癌	腫瘍内科医	WEB
3	2/8(月)	乳癌	腫瘍内科医	WEB
4	2/10(水)	緩和医療(薬物療法)	腫瘍内科医	WEB
5	2/12(金)	肝・胆・膵癌(化学療法)	腫瘍内科医	WEB
6	2/15(月)	精神腫瘍	腫瘍内科医	WEB
7	2/16(火)	白血病	腫瘍内科医	WEB
8	2/17(水)	泌尿器癌(化学療法)	腫瘍内科医	WEB
9	2/18(木)	胃癌	腫瘍内科医	WEB
10	2/22(月)	婦人科癌	腫瘍内科医	WEB
11	2/24(水)	皮膚腫瘍	皮膚科医	WEB
12	2/25(木)	造血幹細胞移植、GVHD管理	移植医	WEB
13	3/1(月)	肺癌	腫瘍内科医	WEB
14	3/2(火)	脳腫瘍	腫瘍外科医	WEB
15	3/3(水)	悪性リンパ腫	腫瘍内科医	WEB

【講義形式】

ZOOMによるWEBまたは会議室での少人数の対面講義形式+ ZOOMによる講義配信



Q 研修の特徴は何ですか？

A 全国に先駆けて導入した薬剤師レジデント制度は今年15期生を迎えました。多くの指導者が専門資格を取得し、10年以上にわたるレジデント指導実績の下、調剤技術から薬剤管理指導業務まで、がんに関する専門知識の習得を目指します。薬剤師だけでなく医師、看護師など他職種との連携を通じて多くのことを学ぶことができます。

Q 研修カリキュラムはどの様になっていますか？

A 3年間のカリキュラムとなっています。2年目までは、調剤業務などを行いつつ薬剤管理指導業務を実施します。この期間の薬剤管理指導業務は、3～4ヶ月程度でローテーションしながら複数の診療科で研修を行います。3年目は希望の診療科で終日薬剤管理指導業務を行い、臨床能力にさらに磨きをかけます。

Q がん医療に関わった経験が少なく、がん専門病院での研修に不安があります。

A 当院のロゴマークにもあるように、国立がん研究センターの目標は世界最高水準のがん診療、最新の治療研究・開発、そして優れたがん医療教育の提供にあります。実際、当院で研修を開始される時点ではほとんどがん治療に関する知識、技術がない方も、研修終了時にはがん医療に従事する薬剤師として独り立ちできるまでに成長します。

Q レジデントの給料はどのくらいですか？

A 薬剤師レジデントの規程に基づき、支給されます。部屋の空き状況によりますが、病院に直結した単身宿舍(有料)を借りることができるため、家賃負担が軽減されています。
(月額) 1年目 240,000円 2年目 250,000円
3年目 260,000円

Q 教育環境について教えてください。

A 抗がん剤治療の件数は1日150件を超え、全国トップクラスの取扱件数を誇ります。そのため調剤経験はもとより薬剤管理指導においても多くの癌種・症例に触れることが可能です。また、年間100を超える講義・セミナーが開催されているほか、薬剤部独自の勉強会も毎月行っており、レジデントだけでなく薬剤部員の教育研修にも力を入れています。

Q レジデント終了後の進路は？

A レジデント修了後、さらに専門性を高めたい方には2年間のがん専門訓練薬剤師コースに進むことができます。レジデントの就職先としては、がん専門施設を初め各大学、地域のがん診療連携拠点病院に異動し、それぞれの立場でがん医療に携わっている方が多くいらっしゃいます。

Q 研究や学会活動について教えてください。

A 研修中、学会発表、論文作成、臨床研究などならんかの学術活動を行うことが奨励されています。日常業務から生じた疑問をまとめ研究として発表する場として、中央病院と東病院で年1回合同報告会を実施しています。研究の内容によっては国内外の学会に発表することができます。

Q がん以外の疾患を学ぶことができますか？

A がん以外の疾患の勉強は外部の勉強会で学ぶことができます。また、他の国立病院機構病院との人事交流を行っていますのでレジデント終了後に他の総合病院でがん以外の疾患を学ぶことも可能です。

薬剤師レジデント・がん専門修練薬剤師



血液／造血幹細胞移植科



消化管内科



脳脊髄腫瘍科



乳腺・腫瘍内科



骨軟部腫瘍科



泌尿器後腹膜腫瘍科



小児腫瘍科



緩和ケア



呼吸器内科



肝胆膵内科

薬剤業務

■ 調剤業務



- 入院調剤
- 外来調剤

内服・外用薬・麻薬の調剤と窓口で使用方法や副作用について患者さんにわかりやすく説明します。



- 麻薬の使用法について説明
- 院外処方箋疑義照会応需

■ 注射業務



- 注射薬調剤
- レジメンの確認

注射薬の調剤と抗がん剤の混合調製を行います。抗がん剤治療についてはレジメンの内容を確認しています。



- 抗がん剤混合調製

■ 薬剤管理指導業務

- 乳腺・腫瘍内科
- 消化管内科
- 呼吸器内科
- 緩和医療科
- 血液化学療法科
- 血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
- 肝胆膵内科
- 通院治療センター
- 小児腫瘍科
- 骨軟部腫瘍科
- 泌尿器・後腹膜腫瘍科



■ 医薬品情報管理業務



- 医薬品情報の収集・整理
- 治療薬物モニタリング
- 情報の加工・提供

医薬品に関する情報を収集し、医療者が使いやすい形に加工し提供します。抗がん剤治療のレジメン登録の事務局業務を担います。



- レジメン管理・登録

■ チーム医療への参画



- 感染対策チーム：ICT
- 褥瘡対策チーム
- 栄養管理対策チーム：NST
- 外来がん薬物療法患者サポート
- 緩和ケアチーム：PCT

■ 外来薬剤師業務



- 薬剤師外来
- 外来化学療法ホットライン
- 通院治療センター

■ 医療連携



- 業連携
- 地域がん医療研修会

■ 治験管理業務

- 治験管理室との連携
- 治験薬管理と調剤・調製

■ 医薬品管理業務

- 医薬品在庫管理
- 麻薬管理
- 手術室医薬品管理

■ 製剤業務

- 一般製剤調製
- 院内特殊製剤調製
- 製剤品質試験

がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度の創設

■中央病院におけるがん専門修練薬剤師制度について

がん領域における人材養成は当院の重要な使命であり、臨床能力の高い薬剤師の育成が社会的にも強く求められていることから、国立がん研究センター薬剤部では、この領域における高い専門性と臨床能力を持った薬剤師の教育に力を入れてきました。そのために当院では、薬剤師教育6年制が導入された2006年に薬剤師レジデント制度を創設し、指導薬剤師のもとで病院薬剤業務の基本とがん薬物療法に関する基礎から臨床までの幅広い知識・技能を習得し、患者や他職種とのコミュニケーションスキルを身に付けた、がん医療に精通した薬剤師の養成を図っています。

しかし、近年のがん薬物療法の急速な進歩に伴い、病院薬剤師の業務が質・量ともに大きく変化してきたことから、今般、現行の薬剤師レジデント制度を発展させ、病院薬剤師の臨床能力を更に高め、チーム医療や臨床研究への関わりを一層深めることを目指した「がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度」を2014年4月に開始することとしました。

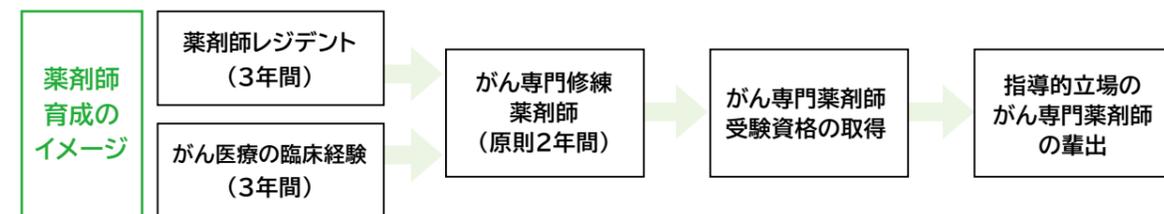
今後、薬剤師レジデント制度とがん専門修練薬剤師制度とを一体的に運用することで、日本医療薬学会がん専門薬剤師の認定要件である認定研修施設におけるがん薬物療法の5年間の研修実績を積むことが可能になるのみならず、がん領域における指導的立場の薬剤師を育成し、全国のがん診療連携拠点病院に配置していくという当院のミッションに照らしても、両制度はわが国のがん医療にとって重要な一歩であると考えています。この新たな制度が志ある薬剤師にとってよき研鑽の場となり、がん医療について高度な知識と幅広い臨床経験を兼ね備えた専門薬剤師の輩出につながることを大いに期待しています。

■東病院におけるがん専門修練薬剤師制度の特徴

薬剤師レジデント制度は、病院薬剤業務の基本的技術を修得するとともに、がん薬物療法に関する臨床および基礎の幅広い知識と技術の修得を図り、がん医療に精通した薬剤師の養成を目的としています。調剤や注射薬などの払出業務、混注業務に加え、薬剤管理指導業務をレジデント1年目より開始して、薬剤師としての一般的な知識と技能、そしてがん医療における薬剤師の役割と各診療科における標準的治療などを並行して習得するカリキュラムが東病院の特徴です。3年目では診療科への連携を強化し、処方支援、処方薬の説明・指導や副作用のモニタリングなどを支援しながら診療のパートナーとしてチーム医療への関わりを深めています。

「がん専門修練薬剤師」はチーム医療への関わりを把握したうえで、臨床研究への関わりを深めることを目的としています。薬剤師は臨床研究のパートナーでもあります。Clinical Questionを臨床研究に発展させて、多くのエビデンスが創出されることを期待しています。

がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度（平成26年度より開始）



■各コース紹介

●薬物動態学／薬力学（PK／PD）臨床研究コース

がん医療において、抗がん薬による薬物療法は集学的治療の3本柱の一つです。最近では分子標的薬の開発により、対象となるポピュレーションの拡大等の面で大きな変化を遂げている反面、個別投与設計ではまだまだエビデンスが不足しています。特に、高齢者など臓器機能が低下している場合や臓器機能障害がある患者においては、薬物療法の中心である殺細胞性薬の選択肢が狭められる一方で、イマチニブに代表される分子標的薬は、PKが直接治療効果に結びつくなど、近年いくつかの興味ある報告がなされ、TDM（薬物治療モニタリング）が行われています。中央病院薬剤部ではこれまで、いろいろな抗がん薬について臨床医と協力して前向きPK／PD研究に取り組み、エビデンスを構築してきました。本コースでは、さらに国立がん研究センター研究所との連携を図り、これまで培ってきたPK／PD研究のノウハウにPharmacogenomicsの概念を加えたリバー

ス・トランスレーショナル・リサーチ（rTR）に進んでいく予定です。薬物代謝酵素やトランスポーターの機能解析なども視野に入れ、後期治療開発に資するrTRを是非一緒に行いましょう。

年間スケジュール	4	5	6	7	8	9	10	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	1	2	3	
固定診療科にてチーム医療の実践																							
薬剤部ゼミで研究コンセプト披露																							
臨床研究プロトコル作成																							
倫理審査委員会にてプレゼンテーション																							
臨床研究																							
米国臨床腫瘍学会などにチャレンジ※																							

●造血幹細胞移植科専門コース（中央病院）

造血幹細胞移植療法は自家・同種合わせて年間5,000人以上の患者さんがその恩恵を受けています。移植前処置の抗がん剤は「超大量」であり、副作用の頻度、重症度も通常とは大きく異なります。また、移植後GVHD（移植片対宿主病）の症状コントロールも簡単ではなく、長期間に渡って「くすり」との付き合いが余儀なくされます。

私たち薬剤師の務めは、科学的根拠に基づいた「標準的な」治療の実践は当然であり、さらなる α （プラスアルファ）、つまり患者さんの様々な背景を踏まえ、薬理学や薬物動態学といった「薬学」を土台にした薬物治療の提案を行っていくことです。それができてこそ真のスペシャリストとして認められます。私たちの α が吹き込む風は移植成績の向上に必ず繋がります。しかし本邦ではまとまった症例を経験することが難しく、臨床経験豊富な「指導者」はそれほど多くいません。

欧米ではBMT Pharmacistは難関であり、人気も高いといわれています。ぜひ日本の薬剤師も負けないことを一緒に示していきましょう。



●支持療法コース（東病院）

国立がん研究センター東病院は24床のPCU病棟と国内では数少ない精神腫瘍科を有するがん専門病院です。当コースは患者の全人的苦痛の緩和を目指した薬学的アプローチの実践とその研究を目的としており、緩和ケアチームやPCU病棟での薬剤師活動とそれを土台にした臨床研究を行ってもらう予定です。研究を支援するツールとしては高度な分析機能を有するLC-MSMSを所有しており、オピオイド等の薬物血中濃度測定や電子カルテ情報を用いた臨床研究が可能です。また、精神腫瘍科の協力により、抑うつやせん妄など精神的苦痛に関する臨床研究も可能です。当院は地域医療への介入研究を行っていた実績があり、在宅医療の分野でも薬剤師の新たな業務を模索することが出来ます。しかし、薬剤師の新規業務を確立させるためにはそのエビデンスの創出が必要です。当院の様々な医療資源を用いることで出来る研究は多数あります。がん医療に寄与できる新しい薬剤師業務の構築にあなたも携わってみませんか。



●固形腫瘍診療科固定コース

国立がん研究センターでは、5大がん種（乳がん、肺がん、大腸がん、肝がん、胃がん）以外にも、頭頸部がんや膵がん、骨軟部腫瘍（肉腫）、血液がん（悪性リンパ腫など）、小児がんとさまざまながん種について専門性の高い診療を行っています。既存のレジデント制度では、まず、基本的に5大がん種についての薬学的管理介入を中心にカリキュラムが組まれますが、本コースは、こうした希少疾患に対しても薬学的管理介入を実践できる貴重なコースとなっています。また、5大がんのなかで、がん専門修練薬剤師を卒業したのちに中心的にマネジメントしなければならない領域が決まっている方には、そのがん種において重点的に薬学的管理介入を実践していただけるコースでもあります。研修期間中にはリサーチマインドも養っていただくなど、がん領域において指導的立場の薬剤師となつていただくためのノウハウを学ぶことができます。本コースは、中央・東の交流も可能です。皆さんニーズに合わせたプラン設計が可能ですので、相談していきましょう。



募集要項 (中央病院・東病院)・薬剤師レジデント

1. 応募資格

平成24年3月以降大学を卒業した薬剤師免許取得者、または、令和4年3月卒業見込みで薬剤師免許取得見込みの者。

2. 募集人数 (予定)

中央病院 6名
東病院 6名

3. 出願手続

- I. 願書受付 中央病院・東病院ともに下記あてに郵送して下さい。
封筒の左隅に「薬剤師レジデント願書」と朱書きして下さい。
【送付先】
〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院
人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係
- II. 締切日 令和3年5月28日(金) 必着
- III. 必要書類
- a. 願書 (所定様式)
 - b. 健康診断書 (所定様式)
 - c. 薬剤師免許の写し (A4判に縮小)
 - d. 大学の卒業証明書または大学院修了書の写し (A4判に縮小) (薬学部生は、成績証明書)
 - e. 在職証明書 (大学院の在籍証明書も可)

4. 選抜方法

書類審査、筆記試験および面接試験

なお、応募者が多数の場合は書類にて一次選考を行います。

5. 選考日時

(中央病院) 令和3年6月16日(水)
(東病院) 令和3年6月17日(木)

6. 選考会場

(中央病院) 国立がん研究センター 中央病院管理棟会議室
東京都中央区築地5-1-1
(東病院) 国立がん研究センター 東病院会議室
千葉県柏市柏の葉6-5-1

7. 合格発表

試験日より3週間後頃を予定 ※採否は郵送にて通知します。

8. 身分

常勤職員 (薬剤師)

9. 勤務

薬剤師レジデント研修課程 (中央病院、東病院) に基づき、指導薬剤師のもと、薬剤業務および病棟業務に従事します。
(日当直または補助業務を含む)

10. 処遇等

- I. 手当 薬剤師レジデント (常勤職員) の規定に基づき支給されます。
II. 保険 社会保険 (厚生年金・雇用保険) に加入します。
III. 宿舍 (中央病院) 単身者用の宿舍 (有料) を、空き状況により利用できます。
(東病院) 単身者用の宿舍 (有料) を利用できます。
IV. 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付します。

11. 説明・見学会

(中央病院) [実地] 令和3年4月22日(木) 14時~16時 [オンライン] 令和3年4月25日(日) 14時~16時
(東病院) 令和3年4月23日(金) 14時~16時

※説明・見学会へ参加される方は、参加希望会場、氏名、現住所、所属 (施設名または大学名)、連絡先を事前にお知らせください。

説明・見学会参加の連絡先

国立がん研究センター 中央病院・東病院
人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係
E-mail : kyoiku-resi@ncc.go.jp

募集要項 (中央病院・東病院) ・がん専門修練薬剤師 (チーフレジデント)

1. 応募資格

- (1) 国立研究開発法人国立がん研究センター薬剤師レジデント研修を修了した者、または令和4年3月に同研修を修了見込みの者
- (2) (1)に相当する学識を有する者で、令和4年4月1日時点で原則として3年以上のがん領域における臨床経験を有する者

2. 募集人数 (予定)

中央病院	2名
東病院	2名

3. 出願手続

- I. 願書受付 中央病院・東病院ともに下記あてに郵送して下さい。
封筒の左隅に「がん専門修練薬剤師願書」と朱書きして下さい。
【送付先】
〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院
人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係
- II. 締切日 令和3年10月中旬 必着
- III. 必要書類
- 願書 (所定様式)
 - 健康診断書 (所定様式)
 - 上司または指導者の推薦書 (所定様式)
 - 薬剤師免許の写し (A4判に縮小)

4. 選抜方法

書類審査、筆記試験および面接試験

なお、応募者が多数の場合は書類にて一次選考を行います。

5. 選考日時

(中央病院)	令和3年11月頃
(東病院)	令和3年11月頃

6. 選考会場

(中央病院)	国立がん研究センター 中央病院管理棟会議室 東京都中央区築地5-1-1
(東病院)	国立がん研究センター 東病院会議室 千葉県柏市柏の葉6-5-1

7. 合格発表

令和3年12月初旬 ※採否は郵送にて通知します。

8. 身分

常勤職員 (がん専門修練薬剤師)

9. 勤務

がん専門修練薬剤師研修課程 (中央病院、東病院) に基づき、指導薬剤師のもと、より専門性の高い病棟・外来業務や研究に従事します。(日当直または補助業務を含む)

10. 処遇等

- I. 手当 がん専門修練薬剤師 (常勤職員) 手当の規定に基づき支給されます。
- II. 保険 社会保険 (厚生年金・雇用保険) に加入します。
- III. 宿舍 (中央病院) 単身者用の宿舍 (有料) を、空き状況により利用できます。
(東病院) 単身者用の宿舍 (有料) を利用できます。
- IV. 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付します。

11. 説明・見学会

(中央病院)	【実地】令和3年4月22日(木)14時~16時 【オンライン】令和3年4月25日(日)14時~16時
(東病院)	令和3年4月23日(金)14時~16時

※説明・見学会へ参加される方は、参加希望会場、氏名、現住所、所属 (施設名または大学名)、連絡先を事前にお知らせください。

説明・見学会参加の連絡先

国立がん研究センター 中央病院・東病院
人材育成センター専門教育企画室専門教育企画係
E-mail : kyoiku-resi@ncc.go.jp



国立がん研究センター中央病院
加藤 奈々美 (東京都出身)

「がん」という分野に興味を持ったのは私自身ががん治療で闘病したのがきっかけです。闘病生活は長く辛いものでしたが、寛解した今この経験を活かすためにがんに精通した薬剤師になりたいと思い当院を志望しました。

当院での3年間のレジデント生活では調剤や抗がん剤の調整、病棟でのローテーションを通じて知識だけではなく技術を習得することが出来ます。またがんに精通している薬剤師から日々ご指導頂けるのも大きな魅力であり、精進していこうと思う原動力になります。スタッフの先生方やレジデントの先輩方も多くいるので、日々の業務や生活で困ったことがあったら相談できるのも心強いです。3年間、きっと大変なことが多いと思いますが日々精進した先に得られるものも多いと思います。がんに興味のある方、切磋琢磨しながら一緒に働きましょう。



国立がん研究センター中央病院
山中 葵 (山梨県出身)

私が当院を志望した理由は、国民の2人に1人が罹患すると言われるがん領域の第一線で活躍できる薬剤師になりたいと考えたからです。

入社して感じたことは、当院のレジデント制度はがん医療を学ぶ機会が多く用意されており、がん医療に専門性を高めるために最高の環境であるということです。1年目のセントラル業務では、日々の業務や研修、勉強会を通してがんに関する基本的な知識を身に付けることができます。2年目以降は病棟で専門的な知識をもった先輩方の指導の下、臨床経験を積むことができます。

レジデント生活は日々学ぶことが多く大変ですが、がん医療に貢献できる薬剤師になれるよう、これからも努力していきたいと考えています。



国立がん研究センター中央病院
上田 哲也 (大阪府出身)

毒性の強い薬剤を複数使用するがん薬物療法においては、「薬を安全かつ適切に使用する」という観点から薬剤師による貢献が特に期待されています。今後、臨床現場における薬剤師の役割がさらに拡大する中で特に重要視されるのは、やはりがん領域であることは間違いありません。このような考えのもと、私

はがん専門薬剤師を取得し患者様及び他の医療従事者に貢献できる薬剤師を目指しています。日々進歩するがん領域のスペシャリストとなるには従来の抗がん剤や治療法を熟知していることはもちろん、最新のものについても学ぶ必要がありますが、当院では数多くの臨床試験や適応外申請による治療が実施されており最先端の治療を目にすることができます。また、高い専門性と豊富な知識でこれら先端医療を支える先輩方のもと、直接指導を仰げることは非常に貴重な経験と言えます。もちろん従来の抗がん剤や一般薬についても丁寧な指導と豊富な課題、定期的に行われる勉強会により学習をサポートしていただけます。将来がん領域で活躍されたい方、是非一緒に働いてみませんか。



国立がん研究センター中央病院
田村 早希 (神奈川県出身)

日本人の2人に1人ががんを患う今の時代に、がん専門薬剤師として活躍している薬剤師の人数は充分とは言えないと感じています。患者様に最善の医療を提供出来る薬剤師になりたい、これが当院の一員になることを希望した一番の理由です。実際に入職すると日々の調剤から混注、病棟業務などの指導を

様々な経験を積んだ先生方に教わることが出来ます。専門の資格を目指す過程が自分の武器になると思いますが、尊敬出来る医療者が大勢いる中で自己研鑽を励むことは、患者様の利益にいつか繋がると思います。

治験を含め、がん領域の国内最先端病院で働くことに責任や不安はありますが、それを超えるやりがいが見つけられています。当院を志す皆さんと一緒に働けることを楽しみにしております。



国立がん研究センター中央病院
本澤 伽椰 (埼玉県出身)

がんは日本人の死因の第1位であり、2人に1人ががんになるとされています。がん治療において薬物療法は重要であり、薬剤師には高度ながん薬物療法の知識が必要とされると考えています。10年以上の歴史を持つレジデント制度の下で数多くの症例や薬物療法に関する知識、技術を学ぶことができると思い、

当院を志望しました。当院のレジデント制度では3年間の研修期間を通して、先輩薬剤師の指導の下、調剤業務や病棟業務を学びます。1年目はセントラル業務をメインに行うことで様々な薬剤の知識を得ることができ、臨床で患者さんに直接関わる前に必要な基礎知識を固めることができます。2、3年目は病棟業務を行い、臨床での経験を積みみます。様々な診療科をローテーションすることで多くの症例について勉強する事ができます。

日々の業務は多忙ですが、実りのある3年間を過ごすことができると思います。がん医療に精通した薬剤師を目指している方はぜひ見学に来て下さい。



国立がん研究センター中央病院
木村 光希 (秋田県出身)

人口の高齢化に伴い、日本のがん罹患数は年々増加傾向にあります。私は病院・薬局実習でも複数のがん患者さんと関わる機会がありました。医療に携わる上でがんを避けて通ることはできない、と考えたことが当院を志望したきっかけです。

当院の薬剤師レジデントの強みは、がん医療に精通した先生の下で臨床経験を積むことができる点です。日常業務の中でも、自分で勉強するだけでは得られない学びがたくさんあります。他にも3年間のレジデントカリキュラムには、高い専門性を持った先生方の講演や研修、勉強会に加えて研究報告会が組み込まれています。薬剤師として働く中で持った疑問を臨床研究に繋げ、アウトプットする方法を学ぶことができるのも魅力の1つです。

当院の薬剤師レジデントは同じようにがんの専門家を目指す仲間と充実した環境に恵まれています。ここで得た知識や経験を患者さんやがん医療に還元していきたいと思っています。



国立がん研究センター東病院
稲垣 沙也加 (茨城県出身)

病院実習で大腸がんの患者さんを担当し、副作用に苦しむ姿に何もできなくもどかしさを感じました。副作用に苦しむ患者さんの助けになりたいという思いからがん医療の知識、経験を積みたいと感じました。東病院では、レジデントカリキュラムが充実していること、薬剤師外来やテレフォンフォローアップなどやられていることを当院レジデント卒の先輩からお聞きし、様々なことを学べる環境があると思い志望しました。現在、様々な患者さんと接する中で患者さんによって副作用の程度が異なることを実感し、個々に応じた副作用管理のできる薬剤師になりたいと考えています。業務、患者指導、研究とやることが多いですが、それと同時に知識・経験を得ることができます。この3年間のレジデントを通して多くのことを吸収し、少しでも患者さんに還元できるように、またがん専門薬剤師を目指して精進していきたいと思っています。



国立がん研究センター東病院
佐藤 弘樹 (滋賀県出身)

抗がん剤治療では副作用がほとんどの患者さんで起こりえます。その中には抗がん剤の副作用により治療を断念するケースや、減量・休薬せざるを得ないケースや、副作用により患者さんのQOLを損なうケースも少なくありません。抗がん剤治療における副作用マネジメントに強い薬剤師になりたいと思い、私は東病院の薬剤師レジデントを志望しました。東病院の薬剤師レジデントの強みは1年目から病棟のがん患者さんに介入できる点と教育プログラムが充実している点だと思います。実臨床ではレジメンチェックや服薬指導、副作用マネジメント等で悩むことも少なくありませんが、指導薬剤師やレジデントの先輩に気軽に相談しやすい環境のため、知識と経験を蓄える機会が十分に与えられていると感じています。4か月毎に各診療科をローテーションし、網羅的にがん治療について学ぶことができるのも魅力の一つだと思います。薬剤師レジデントは多忙で、つらいと感じることもありますが、同じ志を持つ同期と切磋琢磨し、目標とする薬剤師像に近づけるよう日々精進しています。



国立がん研究センター東病院
手代木 貴宏 (宮城県出身)

病院実習の際に、がん専門薬剤師が専門性を活かしてレジメンの作成に関わっていると知ったのがきっかけで、私はがん医療に興味を持つようになりました。私は、患者さんが医療機関の受診から退院以降もフォローをし続け、患者さん1人1人にとって最善となるようながん薬物療法を提供し、安全かつ安心に治療を受けてもらいたいと考えています。そのためには、多くのがん医療に触れ知識や技能及び考え方を身に付け、がん薬物療法に精通し、他職種と連携するためのコミュニケーションスキルを身に付けてチーム医療の一員として機能する必要があると思います。専門性とチーム医療の土台を身に付けて患者さんの健康に貢献出来る薬剤師になりたいと思い、当院を志望しました。最先端のがん医療を提供している当院では山のように学ぶことができ、辛いこともありますが、時間を割いてご指導して下さる先生方、同じ意識を持つ同期にも恵まれている環境に感謝し日々過ごしています。少しでも先生方に追いつけるよう精進したいと思います。



国立がん研究センター東病院
渋谷 悠真 (兵庫県出身)

私が当院のレジデントを志望した理由は、ジェネラリストとともに、癌領域のスペシャリストになりたいと思ったからです。大学在籍中の5年生の実習では、地元のがんセンターで実習する機会があり、当院レジデントを卒業された先生にいろいろと教えていただきました。そこで、このような薬剤師になりたいと漠然と思ったのがきっかけです。卒業後はまず、ジェネラリストになろうと思い、総合病院での勤務を経て癌領域の勉強をするため当院のレジデントを志望しました。教育、研究と様々なイベントがありますが、熱心に指導していただけるので、薬剤師として大きく成長できる環境であると思います。また、エビデンスをしっかりと学び、医師とディスカッションしやすい環境はとても良い部分でもあります。がんセンターだから癌領域しかできないではなく、がん領域のスペシャリストを目指しながら、併存疾患・持参薬等を理解し、ジェネラリストとしても成長することで患者さんにとってより良い薬物治療ができるよう日々頑張っていきたいと思っています。



国立がん研究センター東病院
折本 彬 (福岡県出身)

私は学生の時に、薬剤師がどれくらい患者さんのためになっているのか疑問に思うことが何度ありました。また、大学の実習後の症例発表で、エビデンスのない分野については自分たちでエビデンスを作っていく必要があることを強く感じました。がんセンターの薬剤師レジデントの存在を知ったとき、ここなら私のこの疑問の答えを探ることができるのではないかと思います。レジデント生活は自分の想像していた5倍くらいハードですが、自分の勉強したことを患者さんに還元できた時は一番やりがいを感じることができます。何よりも同じような思いを持ったレジデントの同期や先輩と切磋琢磨できる環境があることで常に目標を持って業務に取り組むことができます。現在レジデント生活も1年終わろうとしていますが、まだまだ知らないことは多く毎日が勉強の日々です。全ては患者さんのために薬剤師として何ができるのか、これからのレジデント生活を通して学んでいきたいと思っています。



国立がん研究センター東病院
千葉くるみ (千葉県出身)

私は学生の時の病院実習で、がん患者さんを担当させてもらう機会がありました。そこで、疼痛や抗がん剤の副作用で苦しみ、治療継続が困難な方と出会いましたが、私は何も介入することができず、がん治療の難しさを実感しました。当時は学生でしたが、薬剤師になってからも同じ思いはしたくないと思い、がん医療への知識や臨床試験を積み、患者さんに最適な医療を提供できるようになりたいと思い、最先端のがん医療を学ぶことができる当院のレジデントを志望しました。入職してからのレジデント生活は、毎日の業務や研究等で忙しく、大変だと感じることは多いですが、困った時に親身になって話を聞いてくれるレジデントの先輩や先生方がいてくれるので、大変なことも乗り越えることができます。残りのレジデント生活においても、より多くのことを学び、患者さんや他職種の方々から頼られる薬剤師になれるように日々精進していきたいと思います。



国立研究開発法人

国立がん研究センター
National Cancer Center Japan

<http://www.ncc.go.jp/>